

令和元年度糸島市協定大学等課題解決型研究事業 実績報告

研究タイトル

糸島市公共施設等総合管理計画及び第1期アクションプランの取組に対する理解促進と「志摩初地域再配置事業」を契機とした地域活性化策について

研究者名

九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 黒瀬 武史
九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 志賀 勉

研究期間

令和元年6月1日 ～ 令和2年3月31日

研究計画の内容

糸島市公共施設等総合管理計画の第1期アクションプランを踏まえ、合併後の地区拠点周辺のまちづくりと公共施設の統廃合のあり方について研究する。

志摩初地域周辺の将来像を描くため、現地調査や地元関係者等へのヒアリングを通じ、地域構造や課題を明らかにし、まちづくりの方向性を検討する。

研究成果

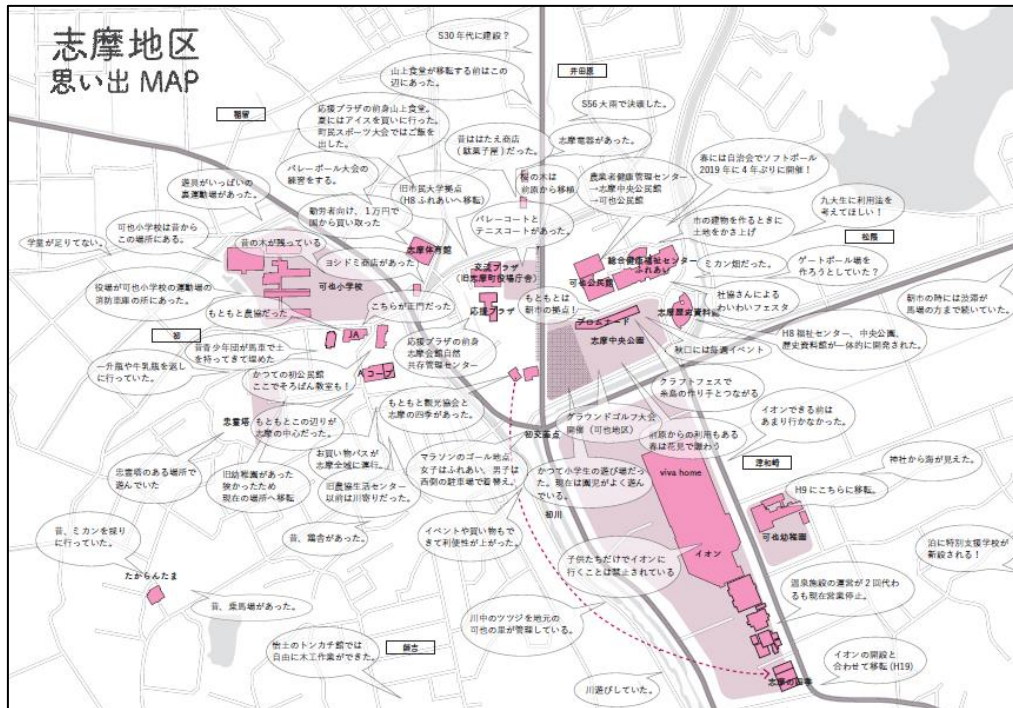
志摩初地域周辺の住民や対象施設の事業者、利用者など、約15団体へのヒアリングを実施した。このヒアリングを通じて初地域の中心部の形成過程や、これまで志摩地区で続けられてきたバレーボール大会など、スポーツが地域コミュニティの維持や交流の役割を果たしてきたことなどを明らかにすることができた。また、現在の初地区の公共施設群が設置されてきた経緯も把握することができた。聞き取りの内容については、「思い出マップ」として整理することで、内容の共有化を図った。

先進事例の調査として、飯塚市の「庄内保健福祉総合センターハーモニー」の統合再編に係る取り組みを視察した。そこでは、飯塚市と近畿大学産業大学理工学部が連携して施設の統合再編を進める上で生じた課題や、市民との協議を進める上での有効な手法などを把握した。加えて公共施設の事例として東日本大震災後の復興で作られた中小規模の公民館等の調査も実施した。

ヒアリングを実施した地元団体

- ・元志摩町長・職員ら
- ・いとしま応援プラザ
- ・可也幼稚園
- ・糸島市社会福祉協議会
- ・可也公民館
- ・いとしま市民大学
- ・糸島市手をつなぐ親の会
- など

地域ヒアリングの結果をもとに作成した志摩地区思い出MAP



ヒアリングで得たキーワードを基に、公共施設の再編を契機とした2つのコンセプトを提案する。

A案「スポーツでつながる」

★ヒアリングで得たキーワード

柔道やバレーなどスポーツが盛んな志摩初地域だが、今後新たに運動機能（体育館等）の床面積を増やすことは難しい状況にある。

地域のスポーツ団体の中には、スポーツとまちをつなげると言うスローガンで子供たちに教えている団体もある一方で、これまでのバレーなどの地域のスポーツ大会には、新しい住民がなかなか参加しづらい状況にある。

★提案の内容

「新規住民」と「地域住民」が気軽に参加できる幅広いスポーツでつなげることなどを目的に、屋根付きの都市広場を整備する。屋根の下で行うことができる多世代向けのスポーツを通じて、新たな形のコミュニティが形成するとともに、屋根付きの都市広場が、自然と人が集まる場所を作るのに適していると考えた。



金石市 TEETO の大屋根

屋根の下に人が集まり、スポーツを通じてコミュニティを形成する。中央公園の再整備も検討し、新たな公共施設を中心に、スポーツを通して生み出された多世代のコミュニティは地域に広がる。

A案のイメージ図



B案 「クラフト 初泊 〜ちょっとおしゃれで特別なCC〜」

★ヒアリングのキーワード

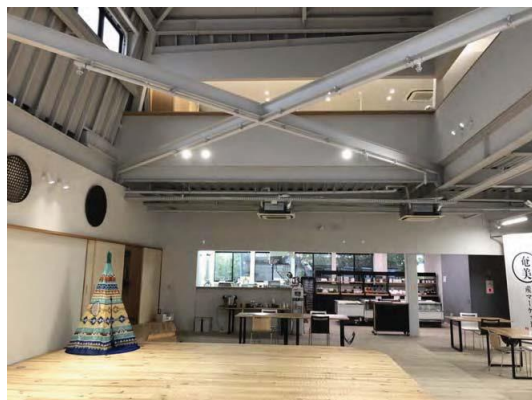
今の若者世代は糸島にブランドを感じており、子供たちも糸島の環境が好きだと言っている。「クラフト」は、現在の糸島のブランドの一翼を担う要素だが、本格的な商品は嗜好性が高く、好きな人同士のコミュニケーションになりがちである。空き家等を活用して、移住者などが利用し、交流できるシステムがあればいいと思う。

★提案の内容

クラフト作家のブランド化が進む糸島。施設にクラフト作家を感じられるような内装を施し、デッキで食、クラフト、コミュニティセンターの機能をつなぐ。

将来的に志摩初を拠点とした、ゲストハウス事業が展開されることを想定し、志摩初の拠点性を高める。民間事業者が運営する一部の機能を、地元住民が気軽に利用できるようにし、地元住民にちょっとおしゃれで特別な活動が溢れる中心的な場所を提供する。

糸島市における空き家の活用と観光拠点整備の計画を一体的に進めるために、クラフト作家の作品を実際に体感できるゲストハウス事業を展開することが適していると考えた。志摩初をゲストハウスのロビーとして考え、運営を民間事業者委託することで地元住民の日常利用と防災機能を兼ね備えた場所を計画する。



B案のイメージ図



今後について

市との意見交換において、検討案の一本化や防災公園整備との連携について意見を頂いた。そのため、早期の段階において、防災公園の整備や道路環境などの前提条件の確認を行うとともに、今回ヒアリングが実施できなかった子育て世代への聞き取り調査や現在の施設各室の稼働状況分析を行う。

研究事業が継続できれば、上記調査を踏まえ、夏には具体的な総合案の作成を行い、平面図による諸室の構成案まで検討を行い、秋には統合案の模型や諸室を作成し、冬に住民への発表会を通して、意見を集約。それらを踏まえた形で令和2年度末までに具体的な提言を完結させたいと考えている。

以上

成果を受けた担当部署の意見 （総務部 公共施設マネジメント推進室）

今回提案いただいた地域活性化策（案）に対する意見聴取等を行うことで、案をさらにブラッシュアップさせていくとともに、その実現性及び実効性のバランスを考慮しながら、地域活性化策を検討していく。

地域住民等への意見聴取や他市の事例調査などの研究を進めていく中でも、事前に担当課と協議等を行い、調整を図っていただいた。今後も継続して連携し、研究を進めていきたいと考える。